

第5章 今後の課題

5.1 今後の課題

今後の課題について、景観評価委員会や景観アドバイス会議等での有識者等からの意見を踏まえて、以下のように、「◎：短期課題」「○：中長期課題」に区分して整理した。来年度以降、下記点について検討する必要がある。

なお、今年度の景観評価システム運用支援（景観アドバイス会議、委員会の支援、アンケート調査）を通しての新規課題は下線で示す。

【景観評価システムの対象事業について】

- ◎原則として、景観評価システムの対象としていない構想・計画段階の事業について、積極的な情報収集とシステムの普及・啓発

【予算措置について】

- ◎土木建築部調整会議において景観検討区分と併せて景観検討費用の予算化も含めて確認し、事業者に対しては景観検討費用の予算確保を周知徹底
- ◎計画・設計業務における景観検討費用の計上の推進（過年度における景観検討費用実績の共有等）
- ◎景観に配慮した設計・施工費用に関して事業分野ごとの国庫補助対象範囲について事業所管課の考え方の整理（沖縄振興公共投資交付金（ハード交付金）および社会資本整備総合交付金）

【実施体制について】

- ◎景観アドバイザーとして県内学識者等の積極的な登用
- 景観アドバイザーによる年数回のアドバイスのみでなく、よりきめ細やかなアドバイスができる体制（事業ごとの景観に関する委員会設置など）の推進

【本システムと事業執行との関係について】

- ◎持続可能なシステムとなるよう、引き続き、事業の円滑な執行を踏まえた景観検討スケジュールの配慮が必要
- ◎事業段階にあわせた景観チェックリストの作成が適切に運用されていない場合もあるため、作成すべき景観チェックリストについて事務局から事業者へ周知することが必要
- ◎維持管理段階の案件を景観評価委員会で確認する案件として積極的に取り上げるかどうか検討が必要（本格運用におけるステージ設定の見直し検討）
- 「費用が変わらず良い設計ができた」など、景観評価システムの運用に

より具体的な成果があがっていることを、県内部の事業者や市町村に説明できる資料を作成することも必要

◎河川事業において設計段階から景観検討を行う際に、既に策定済みの河川整備基本方針や河川整備計画と齟齬が生じてしまう場合の、県としての対応方針について整理が必要

◎設計段階の景観アドバイスメETINGでの検討と並行して、別の工区で既に工事を進めている場合、景観検討の内容を工事にどこまで反映するかは整理が必要

◎計画・設計段階から、グレードアップ費用も含めた予算確保の考え方を事業所管課（予算担当）と調整しながら景観検討を進めることが必要

【本システムへのフィードバックについて】

◎景観評価委員会等で確認した案件のその後の経過については、景観評価委員会でも年1回確認するなどして、課題を把握し景観評価システムにフィードバックすることが必要

【人材育成について】

○景観アドバイスメETINGや景観研修会などの継続的な実施による、県職員及び県内民間技術者の景観人材育成の推進

【景観評価システムのツールについて】

景観チェックリストの見直し

○景観チェックリスト B（基本的事項）とチェックリスト C（計画段階）において、重複する事項があり、煩雑化の要因と考えられる。そのため、システムの改善見直しにおいては、より取り組みやすい仕組みとなるよう、景観チェックリスト B（基本的事項）の簡素化、チェックリスト C（計画段階）の充実化等、景観チェックリストの見直しを検討する必要がある。

重点検討事業概略確認マップの更新

○「優れた景観を有する地域」の情報については、沖縄総合事務局より資料を提供いただき活用したが、平成20年度に作成されたものであることなどから、やんばる国立公園などの最新の情報を確認し、次年度以降に更新する必要がある。

景観資源マップの更新

○「景観資源マップ」の情報については、沖縄総合事務局より資料を提供いただき活用したが、平成21年度に作成されたものであることなどから、最新の情報を確認し、次年度以降に更新する必要がある。

学識者及びオブザーバーリストの更新及び情報提供

- 沖縄県内の色彩の専門家を確認し、「学識者及びオブザーバーリスト」に追加する必要がある。
- 景観アドバイザーを市町村に紹介する仕組みを検討する必要がある。

解説書等の図表の著作権の確認

- ◎沖縄県景観評価システム実施要領、道路解説書、河川解説事例集、港湾解説書、海岸解説書で使用している著作権の確認を行う必要がある。

景観検討事例シートの作成

- これまでの試行運用や本格運用の中で、アドバイスを受けてデザイン等が改善された事例や景観検討のプロセスが改選された事例をとりまとめた事例シートを作成する必要がある。
- 景観検討事例シート作成にあたってのポイントを以下に整理する。

| |
|--|
| <p>景観検討事例シート作成にあたってのポイント（案）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アドバイスにより景観・デザイン面での向上が図られた事例をビフォーアフターで解説 <p>例 川平海岸：護岸断面 パラペット連続型直立護岸 → 前面平場型直立護岸</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アドバイスにより景観検討のプロセスが改善された事例を解説 <p>例 勝連半島南側道路：一部区間の景観検討 ⇒ 路線全体の景観検討に改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アドバイスにより他事業整備範囲も含めて一体的に景観検討を実施した事例を解説 <p>例 水納港：海岸事業で整備している既設の防波堤・突堤等の撤去による影響検討を進めつつ、新規港湾施設の設置を検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アドバイスにより事業費が削減できた事例を解説 <p>例 中城公園展望台：高台に展望台等を整備 ⇒ 高台を活かした広場整備とし展望台整備は中止、必要な施設（トイレや倉庫等）のみを整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・景観検討体制の工夫を図っている事例を解説 <p>例 川平海岸：景観アドバイス会議以外でも事業者独自で景観の専門家に意見聴取</p> |
|--|

優良事例の情報提供

- 上記解説書等作成後も全国的にも良い事例は出てきているため、良い事例についての情報提供の方法を検討する必要がある。